

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	はぐくみの家 第1 ココ		
○保護者評価実施期間	R8年 9月 7日 ～ R8年 9月 18日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23 (回答者数)	16
○従業者評価実施期間	R8年 9月 7日 ～ R8年 9月 11日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 9月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な発達段階にある子どもたち、外国籍を含めそれぞれの事情の違いのある御家庭の子どもたちのニーズに対応できるように努めている。	・子どもの登園時、退園時（引き渡し時）に保護者に対し、子どもの様子をできるだけ直接伝えるように努めている。 ・外国人家庭（ブラジル国籍）の子どもについても、母国語で保護者対応できる支援スタッフの配置により、日常の様子など連絡できている。	・利用定員に対して利用契約数が多いため、個々の状況に合わせた十分な対応ができていない面を反省して調整していきたい。 ・児童発達支援センターに期待しつつ、地域の保健師、相談支援専門員、幼稚園等の並行通園先と連携・協力できる支援体制作りに取り組みたい。
2	保育園、幼稚園で保育経験のある保育士の他、非常勤職員には、看護師、元小学校教諭等、多彩な経験の職員が配置できている。	職員一人ひとりの気づきを共有しつつ、チームで課題を共有する中で支援を進めている。	それぞれの経歴の違いが、療育理念・支援方針の違いにならないように、職員研修等の機会により共通認識がもてるようにさらにチーム力の向上に努めていきたい。
3	子どもたち一人ひとりの状況に合わせながら、さまざまな体験ができるように、活動プログラムを工夫している。	同じ法人内の隣接する児童発達支援事業所では、就学を意識した取り組みがなされているため、子どものニーズに沿って利用調整し、小規模事業所の特性を生かした集団保育（療育）に取り組んでいる。	児童発達支援センターをはじめ、同一地域の児童発達支援事業所間、関係する幼稚園等の保育機関との連携、協力を深めることで、さらに個々のニーズに対応できるシステムを構築したい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の職員の配置数は支援体制上は満たされているが、非常勤職員は、活動プログラムの計画、評価、日常的な研修などの時間を十分取ることができず、常勤職員との連携、共同についての意識に差が生じやすい。	・当事業所に限ったことではないと思われるが、事業所の求める条件にあった人材を採用することの難しさを感じている。 ・多様な職歴、資格、年齢等から成る職員集団をチームとしてまとめることについての経験不足。	・職員に対しては、できるだけフレキシブルな勤務体制を受け入れてもらえるように話し合い、チームとして工夫していく。 ・延長利用時間などに学生ボランティア等を受け入れるなど、経済的な負担のないマンパワーの確保を検討する。
2	開設時から中古物件を改装した建物を活用しているため、子どもたちが生活する場所としては、清潔、安全、機能性について改善すべきところが多い。	雨漏り、危険箇所など緊急性の高いところは、できるだけ速やかに修繕していきたいが、建物の構想上の変更には、経済的に対応の難しさがある。	子どもの予想外の建物外への飛び出し防止のための扉の開閉を制限する工夫、プライバシー確保の面から、幼児用トイレに簡易扉を設置した。
3	幼稚園等との並行通園での利用が増えている。園によって違いがあるが、並行利用することのデメリットを補うところまでの連携・協力ができていない。	幼稚園等で並行通園に対して、理解・対応に差がある。所管する行政窓口も違うため、共通の課題として協議する場がない。	幼稚園等と個々に情報交換、個別支援会議等の努力を勧めつつ、児童発達支援センターを含む児童発達支援事業の共通課題として連携して協議できる機会をつくりたい。